

平成23年度新潟市区自治協議会委員研修会
於東区プラザホール

改めて問い直す『協働の要』とは

～区自治協議会二期4年の取り組みをもとに～

新潟大学 産学地域連携推進機構

教授 松原 幸夫

PHS: 070-6570-9039

E-mail: matubara@adm.niigata-u.ac.jp

目次

1. 設置の背景
2. 自治協の役割
3. 二期4年の取り組み
4. 今後の展望

自治協設置の背景

- 時代の潮流への対応
 - 価値観の多様化・長寿少子化社会
 - 行政と地域との「協働」による取り組み
- 広域合併～政令市へ
 - 平成17年の大規模合併
 - 平成19年の政令市移行
 - 地域で完結できるきめ細かい仕組みづくり

新・新潟市合併マニフェスト

～学び合い、共に育つ～

- 世界と共に育つ日本海政令市
- 大地と共に育つ田園型政令市
- 地域と共に育つ分権型政令市
 - 本格的な地域主権時代をリードする
 - 自主・自立の精神風土の歴史

合併後のまちづくり

- 財政破綻
- 高齢少子化
(地域空洞化)
- グローバル競争激化
(地域経済の衰退)



- 分権改革・財源移譲
- 共に助け合うまちづくり
- 地域経済の再興

参考文献: 小川竹二『災害と破綻のまちから分権型の政令市へ』(新潟日報事業社2008年)

コミュニティの形を法的に保障

- 新潟市区自治協議会条例
 - 市民と行政の協働による住民自治を推進するため、区自治協議会を置く
- 新潟市自治基本条例
 - 市民・議会・市長は対等
 - 市民が広く参加できる機会の確保
 - 市民との協働による事業推進

自治協議会の役割

- 地域の「総合的な審議機関」として、地域の意見やアイデアを市政に届ける
- 「協働の要」として地域と行政を「つなぐ」

cf. 市議会の役割

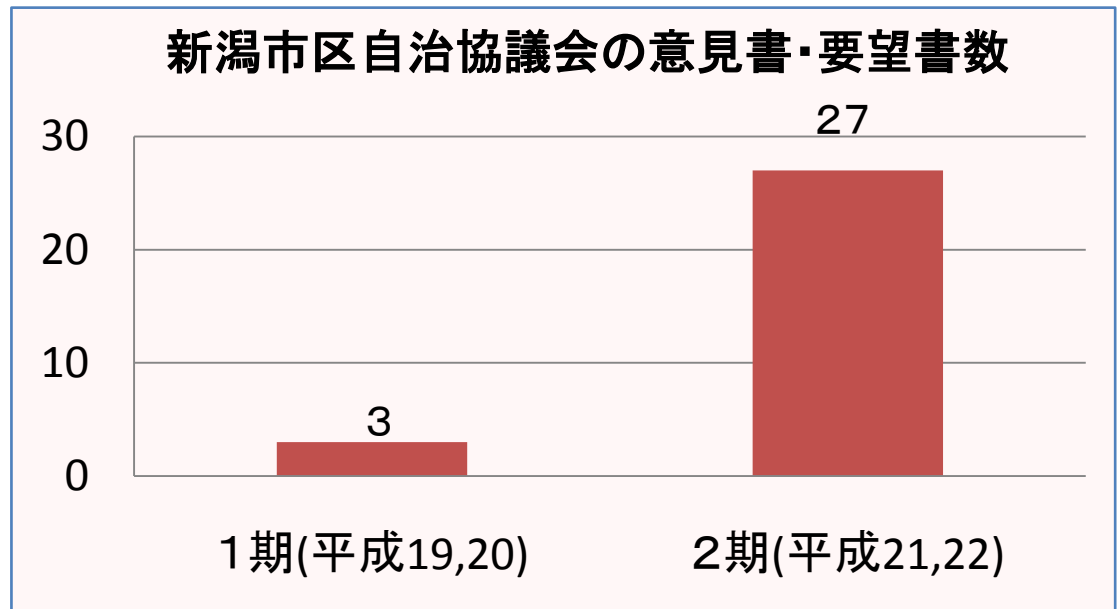
- 市の施策を審議・決定
- 市長等の執行機関を監視

二期4年の取り組み

1. 地域の「総合的な審議機関」

- H19年度「区ビジョンまちづくり計画」
- 「特色ある区づくり予算」
- 「合併建設計画」
- 会長会議

2. 「協働の要」



会長会議

- 地域課題の共有と先進事例の学び合い
- 会長相互の親睦と交流→他区との連携
- 会長会議プロジェクト 一つの区では解決できない課題の提言
- 新潟市区自治協議会委員研修会

会長会議プロジェクト

- 8区の委員が教育・コミュニティ・保安林・交通につき、WGで3ヶ月間調査・審議
- 8区からエキスパートが選出され、質の高い議論を展開
- 2012年4月市長へ提言書提出

自治協委員研修会

- 8区の委員が、自前アンケートの希望により、8つのWGに分かれ討議
- H20年度：講演会、ワークショップ
- H21年度：テーマ別部会、全体会議
- H22年度：テーマ別部会

8区定期連絡会「新潟講」を作ろう

- 会長会議Pj、区自治協議会委員研修会をさらに発展させ、8区の委員が定期的に、テーマ別に集まり、情報交換できる場を作ろう。
- 江戸時代の「講」の精神で運営

西区の取り組み

当初の課題

1. 異なる地域文化の融合、一体感の醸成
2. 「話し合いの形」を作る
3. 自治協「文化」の継承

「話し合いの形」をつくる

- 一人でも多くの人が出す 3分間ルール／提案シート
- 「すじ」を大切に
- 部会、プロジェクトチーム、検討会、目線合せの会
- 西区自治協運営指針 cf. 東区の「自治会運営の充実に向けて」
- 傍聴者意見・感想シート、名刺
- 内野コミ協での講演／みんなの夢を集める
- 北区ガチンコ・シンポジウム

まちづくりのポイント

- 小さな声を大切に
- まずは、自助 今、人・施設・チャンスはあふれている
- 区役所と区民が同じ目標をめざす
- できることから一つずつ
- 過程を楽しむ

自治協「文化」継承のポイント

- キャリアパスをつくる／委員1年→部会長・副会長1年→会長2年
- 自治協、会長会議へ他の委員が代理出席、オブザーバ参加できるようにする
- 8区自治協委員研修会への参加
- 西区自治協新任委員オリエンテーション／(ワークショップ)
- 2012.2.27「協働」についての意見交換会

自治協と区役所が同じ方向をめざす

- 大学との連携
- 区役所整備
- JR越後線増便
- ウェルサンピア存続
- ひまわりクラブ整備
- 西区一斉クリーンデー

区役所整備問題

- 2009年5月
委員から課題提起
- 2009年6月
プロジェクトチーム設置
- 2010年1月
西区全世帯アンケート
- 2010年3月
西区議員団との
意見交換会
- 2010年4月
市長への要望書提出



西区役所ホームページより

JR越後線増便／西蒲区との連携

- 2010年9月
西蒲・西区の自治協が各
コミ協に署名呼びかけ
- 2010年11月
両区で約4万人署名
- 2010年12月
両区自治協議会が
市長へ要望書提出
- 2011年1月
市長と両自治協で
JRへ要望書提出
- 2012年3月
ダイヤ改正により増便



ウェルサンピア存続

- 2009年5月
委員から課題提起
- 2009年9月
西区自治協から要望書を市長へ提出
- 2010年3月
メイワサンピア(明和工業)営業開始
地元従業員は継続雇用



メイワサンピアHPより

ひまわりクラブ整備充実

- 2010年11月
委員から課題提起→現地視察
- 2011年2月
自治協で要望書決議
- 2011年3月
市へ要望書提出
- 2012年秋
内野小にプレハブ増設

日本文理 奇跡の猛反撃

- 2009年 自治協議会にて万歳三唱を決議

その他の特色ある活動

- 大学との連携（西区DEアート、みゅーじっくろさき、新入生歓迎・地域一斉グリーンデー、親子ふれあい農業体験、リユース市、自炊道場、椿油PJ）
- 坂井輪コミ協（小学校との連携：プレイパーク、ボランティア室の会議室としての利用）
- 東青山コミ協（小学校の空き教室利用、イオン内に親子居場所づくり）
- 内野（地上絵PJ、キャンパス町内会、あるかねっと）

現状認識

- 達成したもの
 - 「審議機関」としての機能
- 今後の課題
 - 「協働の要」の「形作り」
 - 自治協「文化」の伝承

協働の要の形づくり

- コミ協会長への仕事の一極集中
 - コミ協業務の組織化、代理化、管理化
 - 若手委員、学生委員等の活躍
- 人・モノ・金の不足→財源移譲
 - ソフトだけでなく人件費や設備費も対象に
 - 部会、検討会の活動への費用弁償
- 「話し合う形」の整備
 - 部会、検討会等の小さな単位の活動にブレークダウン
 - 8区定期連絡会等で、横糸を縦横に張りめぐらせる

これからの自治協議会

- 鉄は熱いうちに打て

- 3期4期の4年間で自治協の「協働の要の形」を完成させて、100年伝承されるシステムをつくりあげよう。今がそのときだ。

- 楽しく、愉快に、勇敢に

- 今は激変期。高い志と現場感覚とフットワークで事に当たろう。自助（Self Help）の精神でまちづくりを楽しもう。

- 「自治協精神」を伝承しよう

- みんなの英知を集めて「自治協委員心得」を作成し、その精神を伝承しよう。

- 世界と歴史に学ぼう

- 国内外の先進事例だけでなく、江戸時代のまちづくりからも学び、新しい時代を切り拓く「まちづくりの形」を作ろう。新潟は江戸文化の宝庫だ。

天は自ら助くる者を助く

- 自助とは勤勉に働いて、自分で自分の運命を切り拓くこと、つまり他人や国に頼らないことである。
- 外部からの援助は人間を弱くする。自助の精神こそ、その人間をいつまでも励まし元気づける。
- いつの時代にも人は、幸福や繁栄が自分の行動によって得られるものとは考えず、制度の力によるものだと思信じたがる。
- だが、どんなに厳格な法律を定めたところで、怠け者が働き者にな変わったりするはずがない。
- われわれ一人ひとりがよりすぐれた生活態度を身につけない限り、どんなに正しい法律を制定したところで人間の変革などとはできないだろう。
- 国家の価値や力は国家の制度ではなく国民の質によって決定される。

出典Self-Help: With Illustrations of Character, Conduct, and Perseverance, London, 1859(竹内均 訳『自助論』三笠書房 知的生きかた文庫)

『自助論』は明治4年に『西国立志編』として日本語訳が出版され、明治の青年たちに広く読まれた。

「天は自ら助くる者を助く」という独立自尊のスローガンが彼らを奮い立たせた。

まちづくりへの誇りと連帯



写真提供：新潟西区役所

ご清聴ありがとうございます

先人の言葉

先人の言葉

1. 現代

- 地方自治を行うものは、道理と勇気が必要である(小川竹二)
- 天の時を掴み、人の和で人々の協力を得、地の利を生かす。
- 寝ている者は起こし、座っている者は立たせ、歩いている者は走らせ、皆一つになって大きな流れを作れ。(井上晴丸)
- 大切なことは、歴史認識を持つことである。この社会的認識と歴史的認識の二つが理解できれば、現時点で自分のなすべきことは何であるか、その方向性はどうであるかがわかる。(川本八郎)
- どんな事態に直面しても「それにもかかわらず！」と言い切る自信のある人間。そういう人間だけが政治への「天職」をもつ。(マックスヴェーバー)

参考文献 小川竹二『災害と破綻のまちから分権型の政令市へ』新潟日報事業社、2008年

2. 江戸時代

山田方谷

- 友に求めて足らざれば、天下に求む。天下に求めて足らざれば、古人に求む。
- ふみ見るも、糶^(すき)もて行くも、一筋の、学びの道の、歩みなるらむ。
- 分けて見よ。今は葎のしげるとも、中に直ぐなる道のありしを。
- 柔能く剛を制する理を知り、而して後以て世に処すべし。以て事に接すべし。以て人を治むべし。
- 国家を治むるは、徳に非ざれば不可なり。才智の能く為す所に非ず。

: 出典: 山田方谷に学ぶ会編『山田方谷のことば』登龍館、2007

吉田松陰

- 夫れ重きを以て任と為す者、才を以て恃^(たのみ)と為すに足らず。知を以て恃と為すに足らず、必ずや志を以て気を率ゐ、黽勉^(びんべん: つとめはげむ)事に従ひて而る後可なり。
- 聖賢の貴ぶ所は、議論に在らずして、事業に在り。
- 成し難きものは事なり、失ひ易きものは機なり。機来たり事開きて成す能はず、坐してこれを失ふものは人の罪なり。

出典：川口雅昭編『吉田松陰先生名辞』登龍館、2005年

二宮尊徳

- 人と生まれ出でたるうへは、必ず死する物と覚悟する時は、一日活ければ即ち、一日の儲け、一年活ければ一年の益なり。故に本来わが身もなき物、わが家もなき物と覚悟すれば、あとは百事百般みな儲けなり。
- 遠きを謀る者は富み、近きを謀る者は貧す。それ遠きを謀る者は、百年の為に松杉の苗を植う、まして春植ゑて秋実のる物においてをや、故に富有なり。近きを謀る者は、春植ゑて秋実のる物をも、猶遠しとして植ゑず、只眼前の利に迷ふて、蒔かずして取り、植ゑずして刈り取る事のみに眼をつく。故に貧窮す。

-
- 予は人に教ふるに、百石の者は五十石、千石の者は五百石、総てその半ばにて生活を立て其の半ばを譲るべしと教ふ。(中略)各々明白にして、迷なく疑なし。此のごとくに教へざれば用を成さぬなり。
 - 人たる者は、智慧は無くとも、力は弱くとも、今年の物を来年に譲り、子孫に譲り、他に譲るの道を知りて、能く行けばその功必ず成るべし。

-
- 大事を成さんと欲すれば宜しくまず小事を務むべきなり。大事を成さんと欲して小事を怠り其の成り難きを憂へて、成り易きを務めざるは小人の常なり。小事を務めて怠らざれば則ち大事必ず成る。
 - ～飯と汁木綿着物は身を助く 其の余は我をせむるのみなり～ 是れわが道の悟門なり。能々徹底すべし。予若年より食は飢ゑを凌ぎ、衣は寒さを凌ぎて足れりとせり。只この覚悟一にして今日に及べり。

-
- 田圃の荒るるは、天道自然なり。耕耘怠らずして、荒らさざるは、人道なり。堤の潰るは、天道自然なり。之を堰て怠らざるは人道なり。(中略)人心放僻奢侈に流るるは自然なり。仁義礼讓を以て之を教へ之を防ぎ怠らざるは人道なり。
 - おおよそ人の勲功は、心と体との二つの骨折に成る物なり。その骨を折って已まざる時は、必ず天助あり。

-
- はや起きにまさる勤めぞなかるべし

夢でこの世をくらし行く身は

- 春植ゑて秋のみのりを願ふ身は

いく世経るとも安き楽しさ

寺田一清編『二宮尊徳のことば』登龍館、2008年